

# 技術士の資質・地位向上へ

(公社)日本技術士会 中国本部長 大田 一夫



新年明けましておめでとございます。

皆様には、平素より日本技術士会中国本部の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

日本技術士会では、この数年、「技術士の更新制」の導入について熱く議論してきましたが、技術士のCPD登録が十分に普及していないことから、導入には時期尚早という結果になりました。今後、その実現のためには、会

員だけでなく未入会技術士を含めた多くの技術士がCPD登録をする環境づくりが不可欠です。

この様な中、本会は、昨年4月、文部科学大臣より「技術士CPD活動実績の管理及び活用」に関する事務の実施主体となるよう通知を受けました。これにより、今後は土木学会や建設コンサル

タンス協会等の関連学協会と連携して、これらの学協会にCPD登録している技術士のCPD実績も本会が一括管理して、技術士のCPDに関する証明証の発行等の事務全般を本会が担うことになりました。また、技術士の更新制

等の諸制度の実現に対しては、関係省庁に対する強力な働きかけが不可欠です。その応援という

べき存在が、文部科学省や国土交通省の大臣経験者等からなる約30名の国

会議員で組織された「与党技術士議員連盟」です。弁護士や医師の国会議員が多い中、技術士の国会議員は僅か4名しかおらず、これまで会長代行として舵取りをされてきたのが、中国本部会員でもある国土交通大臣の齊藤鉄夫氏です。齊藤氏は、昨年の衆議院選挙で自公政権に対して政治と金の問題で逆風が吹く広島3区から立候補され、見事当選されました。地元の本部長

として安堵するとともに、今後は政府関係者として立場は変わりますが、技術士のよき理解者として、技術士の活用と地位向上にご尽力いただけるものと期待しております。

中国本部の使命は、会員に対する内向きの活動である「技術士の資質向上」と社会に対する外向きの活動である「技術士の地位向上」の二つに集約されます。

前者については、昨年はコロナ対策で会場参加の行事を原則中止したため、CPD行事開催回数は前年の約7割に、CPD提供時間も前年の約6割と減少しましたが、オンライン講演は約1・3倍に増え、さらにオンラインで遠隔地からの参加も可能になり、延参加人数は前年の約8割までの減少に留まりました。今後、CPD実績の活用が重要になることから、コ

ロナ終息後でも、会場参加とオンライン参加を併用する「ハイブリッド型」での開催を続けて、多くの技術士にCPD機会を提供していく所存です。後者については、「大学

・高専への教育支援」「小中学生への理科教室」「市民への防災教育や被災地の復興支援」「中小企業への技術指導」等の技術力をベースとした社会貢献活動を行うことで、社会に対して技術士の存在意義を示す活動が重要だと思っています。特に、昨年は、広島工業大学と宇部高専の2校と連携・協力協定を締結し、これで2大学5高専と協定締結し、今年は連携・協力活動の具体化・実践の年と考えております。最後に、新しい年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことを、祈念申し上げます。